

ピースボート災害ボランティアセンター 2014年7月 山形県南陽市支援 活動レポート

作成:2014年8月31日

山形県の南部に位置する山形県南陽市(なんようし)は、昭和42年赤湯町、宮内町、和郷村の2町1村が合併し3万3千人が生活を営んでいる。古くから湯治場として栄えた赤湯温泉や、ぶどう栽培が盛んなことからワイナリーも多く見受けられます。

南陽市では、2014年7月9日から10日未明にかけての豪雨により甚大な被害が発生しました。昨年につき2度にわたる大雨による被害を受け、家屋への土砂流入や浸水と共に、農作物へ対する甚大な被害も発生しました。発災直後の報道機関の発表では1200戸の住宅へ対し浸水被害とされ、(後日訂正があり、床上185、床下410)それに伴いPBVでは先遣スタッフ2名を派遣し現地調査を行いました。



現地ではPBVが加盟する震災がつなぐ全国ネットワークメンバーや、ジャパンプラットフォームと被害状況を調査。浸水被害のあった地域は市内の中心部に位置し広い範囲に浸水被害のあった赤湯地区、浸水家屋は30戸前後だが一軒一軒の土砂の流入量が多い漆山地区、昨年につき10戸弱の家屋に被害あった金山地区と市内3箇所にもたがり、甚大な被害があることを確認しました。

南陽市では、家屋への浸水被害を受け「7.9南陽市豪雨災害ボランティアセンター(以下:災害VC)」が7月12日より設置されました。また災害VCでは昨年の活動経験から「協働型のボランティアセンター」というコンセプトを掲げ、外部からの支援を積極的に受け入れる方針を取っていました。それもあって県内外からの個人や団体ボランティアが運営にも関わっていました。



PBVでは、南陽市災害VC運営スタッフらと外部支援の必要性に関して協議し、災害VCからの情報発信のサポート業務や、漆山地区に設置する災害VC漆山サテライトへ対し長期的に支援に入れるサテライトリーダーを派遣することを決定。県内外からの団体ボランティアの現場活動コーディネート業務を行いました。また活動ボランティア不足も考慮し1日辺り10名前後のボランティアを活動終了の8月3日まで派遣し、のべ250名が参加しました。また震災がつなぐ全国ネットワーク会員団体の「かながわ311ネットワーク」とも協力しボランティア活動を実施しています。



今回、特徴的だったのは地元企業が積極的にボランティアに参加していたことです。災害ボランティアセンター開設期間中、毎日社員をボランティアとして派遣していたり、災害ボランティアセンター閉所後も社会福祉協議会と連携をして様々なニーズに対応をしていました。地元の強みが活かされていると感じました。また、南陽市のへの支援には、東日本大震災で被災した宮城県石巻市や、昨年PBVが支援を共に行った伊豆大島や山口市からのボランティア参加や、激励のメッセージなども届きました



今回の支援には東京海上日動火災保険株式会社「Shere Happiness 倶楽部」様からの災害対応費をはじめ、震災がつなぐ全国ネットワーク事務局より活動費の助成、多くの個人の皆様からのご寄付を頂きました。また南陽市福祉課の協力のもと防災センターを宿泊場所として提供や南陽市社会福祉協議会など地元行政、民間からのご協力を頂きました。また現地で共に活動を行った災害ボランティア活動支援プロジェクト会議、ジャンププラットフォーム、日本財団、OPEN JAPANなど多くの皆さまに支えられた支援となりました。まことにありがとうございました。